

海とにんげん & SOS

2025.12.25 Vol.51



相賀の神祭は、ぬくたるさん

11月16日、南伊勢町相賀浦、大賀神社の神祭が行われました。

写真は神祭の前夜、「宵宮」の様子です。15日午後6時、神社境内の社務所に区長、当屋、区や漁業協同組合の役員らが、白装束に烏帽子、袴などの正装をして集まります。その他、漁業に従事している区の人たちも参加します。区長の会式のあいさつの後、太鼓の合図があり、神主が祝詞をあげ、区長から順にお祓いを受けます。

そのころ、社務所の炊事場では広い口の塩釜で塩湯が沸かされています。以前は海水を沸かしていたそうですが、今は真水に塩を入れて沸かします。

再び神主が祝詞をあげた後、いよいよ笛踊りです。神主から順に、笹竹を交互に合わせた150センチほどの笹竹を持ち、笹の葉に塩湯を浸けて、「ヨイショ、ヨイショ、ヨイショ、海は大漁、陸は万作、村は繁盛」と威勢のいい声で唱えながら、大腿でドスドスと歩き、塩湯を参列者に浴びせまします。区長や役員らも一人ずつ順に笹竹を持ち、浴びせていきます。参加者は頭を低くして、上着や上着のフードで塩湯がかからないよう守ろうとしますが、塩湯を浴びるのは潔斎のため。「もつと湯を浸けやな」「冷たいぞー」など、浴びせる人への掛け声や野次、それに対する笑い声。塩湯を浴びることさらに盛り上がりまします。

最後に、皆でお神酒をいただき、終了です。

翌16日、神祭当日は朝から快晴。暖かい日となりました。

神祭が行われる11月の中旬、本来なら寒くなる時期ですが、相賀の神祭の日は不思議と暖かい好天に恵まれることが多いそうです。そのことを相賀の人は「相賀の神祭はぬくたるさん」と言います。この地方の方言で暖かいことを「ぬくい」と言うことから、そのように言われます。

(畑)

相賀浦…三重県南部、熊野灘に面した漁村。昭和30年代まではカツオ漁が盛んで、大型のカツオ漁船も数隻あり、三重の焼津と呼ばれたこともありまました。

ウナギのはなし2	2～4P	特別展「ふのりと日本人 暮らしを繋ぎ 文化を繋ぐ海藻」	6P
東京大学名誉教授 大竹二雄	5P	錦浦金蔵寺の鰯記念の碑	7P
海苔で伝える海の危機	川原瑠心		
鳥羽市立答志中学校三年			